







<p>4月14日（金）</p> <p>自閉症基礎講座</p>	<p>「児童生徒が学校に来る前に、より障害について理解をしておこう」ということで、新年度始まってすぐに職員を対象にした「自閉症基礎講座」を行いました。</p> <p>障害の病理についてや、そこからどのような特性がうまれるかについて等、講師の実践事例を交えて分かりやすい説明がありました。職員は「うんうん」とうなずいたり、熱心にメモを取ったりして、新年度の指導に生かそうという熱意が見られました。障害理解に関わる講座は、年間の中で引き続き行っていく予定です。</p>	
<p>4月26日（水）</p> <p>自立活動講座</p> <p>5月1日（月）</p> <p>個別の指導計画作成のポイント</p>	<p>個別の指導計画作成の際の参考にするため、自立活動部を中心に「自立活動」の内容について研修を行いました。まずは、自立活動の「6区分26項目の内容」についてしっかりと理解し、昨年度の実際の指導計画の文例を見ながら、それがどの内容に当てはまるか、どのように書くと評価しやすいのか等について職員で話し合いました。</p> <p>また、どのような考え方で、どのような表記で指導計画を記入するのかについて担当職員から説明を受けました。2つの研修を通して、障害のある子供たち一人一人にとって重要な学びをどのように設定していくのかを理解することができました。</p>	
<p>5月2日（火）</p> <p>車椅子・バギー避難練習</p> <p>防災用品研修</p>	<p>職員の安全研修会を行いました。今回は「エレベーターが使用できない場合の車椅子・バギー児童生徒の避難」の練習と、防災用品の使い方の練習を行いました。</p> <p>4人組で階段の昇降を行う際、乗っている人に恐怖感や危険を感じさせないよう高さをそろえて運ぶ、声をかける、というポイントを考えながら行いました。</p> <p>防災用品の使い方の練習では、学校内にある防災物品を使ったり、発電機を実際に動かしたりしながら、緊急時にあせらず使用できるよう練習しました。災害時に子供たちが落ち着けるよう、職員が緊急時の動きをしっかりと理解しておく重要さを感じました。</p>	

<p>7月25日（火）</p> <p>ICT 機器を活用した指導方法の研修</p>	<p>近年、特別支援教育の現場では IT 機器が多く活用されています。当校でも若い教員を中心に、iPad を使った、プレゼン・スケジュール提示・動画での振り返り等授業で活用している姿が多く見られます。今回は、「IT 機器を使った指導方法についてさらに学びたい」という要望を受け、新潟市障がい者 IT サポートセンターの山口俊光先生を講師としてお呼びして公開講座を行いました。講義では、読み書きに障害のある子供たちに有効な支援具の紹介や、重度重複児への支援具の事例紹介等を行っていただきました。また、実際の支援具をたくさん持参していただき、講座の後半では実際に機器にふれながら、作り方や使い方について質問する参加者の姿が見られました。研修を受け、「夏休みに支援具を作ってみたい」という声が多く聞かれ、大変有意義な研修会になりました。</p>	
<p>8月22日（火）</p> <p>アレルギー対応研修 (エピペンの取り扱い)</p>	<p>「誰でも突然アレルギー症状が出る危険性がある」ということで、エピペンの取り扱い方についての研修を全職員で行いました。研修では、養護教諭からの講義の後、針のない模擬のエピペンを使って体に打つ、取り扱い方法を練習しました。</p> <p>アレルギー症状は、いつどこで誰に起こるか分かりません。普段から突然の事態に対応できるよう、対応方法を学んでおくことで安心感につながると感じました。</p>	
<p>8月29日（火）</p> <p>自立活動研修 (改造マウス作り)</p>	<p>上越特別支援学校の実習助手の広瀬政春先生をお招きして、教材作りの研修を行いました。前半の研修では、関病連の研究会で発表された先生の実践についての内容をお聞きしました。後半は先生が実際に作成された教材を紹介していただき、その後、全員で実際に教材作り（改造マウス）を行いました。参加者は広瀬先生の面白いトークやお褒めの言葉を受け、楽しみながら教材作りを行っていました。また午後は、重複学級の個々の生徒に合わせた教材を先生と一緒に作りました。教材作りの視点や技術を分かりやすく教えていただき、充実した1日研修になりました。</p>	

<p>8月30日(水)</p> <p>不審者対応訓練</p>	<p>不審者侵入時における職員の対応を学ぶため、不審者対応訓練を行いました。不審者が侵入、警察官が拘束するまでの一連の流れを確認しました。児童生徒の安全を確保する、施錠をする、バリケードを築くなどを、限られた時間の中で素早く行うことができました。不審者の侵入を伝え、全校に施錠の放送が流れ、犯人が拘束されるまでの間、およそ5分ほどでしたが、とても長く感じる訓練でした。小出警察署生活安全課長様からは、「声を出す」「情報を共有する」「訓練を日頃の生活に生かす」というご指導をいただきました。訓練で終わりにするのではなく、日頃から児童生徒の安全を一番に考え、対応していくことの大切さを改めて確認しました。</p>	
<p>9月6日(水)</p> <p>てんかん研修会</p>	<p>子供たちの学校での突然のてんかん発作に対応するため、全職員でてんかんについての研修を行いました。養護教諭から、てんかんの種類や発作の出現の仕方、対応方法等についての説明を受けたり、実際の発作の様子をアニメーションDVDで見たりすることで発作について具体的なイメージをもつことができました。2学期が始まりましたが、校内に用意してある観察シートを活用して、緊急時でも慌てず記録を取りながら対応していく大切さを皆で確認できました。</p>	
<p>10月～11月</p> <p>各学部の公開授業 「般化につながる授業作り」</p>	<p>今年の校内研究のテーマは「できる力の活用Ⅱ～家庭・地域とのつながりの中で～」です。校内でつけた力・スキルを、学校以外の場所で発揮し般化するための授業作りを工夫しました。2学期は3学部で公開授業を行いました。それぞれの学部で様々なアイデアを見ることができました。小学部はピーラーの皮むきで家庭でのお手伝いを目指し、中学部は家庭の仕事として洗濯もの干しができるように練習しました。高等部は、前期の現場実習で見た個々の課題を克服するため学校で練習をし、後期の現場実習でその力を発揮しました。将来、地域社会の中で生きていく力を付けるために、場所や支援者が変わっても「できる」ように練習していくことはとても大切です。今後も職員で、家庭・地域につなげていく学習を意識して取り組むことを確認しました。</p>	

<p>12月8日（金）</p> <p>人権・同和研修</p>	<p>毎年必ず実施している、人権・同和に関する研修。今年は「拉致問題」と「障害者差別」というテーマで行いました。前半はビデオ「めぐみ」を上映し、未だ解決していない拉致問題についての理解を深めました。その後はグループになり、生活の中にある「障害者差別」にはどのようなものがあるのか、それに対して学校はどのような指導や働きかけをしていく必要があるのか等を話し合いました。障害者差別解消法が施行され、一方的に合理的配慮を提供しないと罰せられることもあります。国の動向にもよりアンテナを高くして指導にあたり、啓発を進めたりする必要を感じました。</p>	
<p>12月26日（火）</p> <p>第3回魚沼地区特別支援教育フェスタ</p>	<p>今年度の研究・研修のまとめと位置づけている「特別支援教育フェスタ」。今年で3回目を迎えました。県内から133名の方々に参加していただくことができました。今年度は、主に特別支援学校の実践ポスターが32本と、職員が普段から使っている教材・教具の展示を行いました。参加された皆さんは、興味のあるポスターの場所で実践者とセッションしたり、CAFEのコーヒーを飲みながらの情報交換や書籍を読んだりしながら、特別支援教育についての見聞を深めていました。</p> <p>特に、教材の写真を撮影したり、作り方を聞いたりして自学級に生かそうとされている姿が多く見られるなど、教材・教具展が大好評でした。</p>	